



令和 5 年度

学校関係者評価報告書

学校法人諏訪学園
山形医療技術専門学校

学校法人諏訪学園山形医療技術専門学校の学校評価委員会は、令和 5 年度自己評価に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、その結果を以下のとおり公表いたします。

1 学校関係者評価について

専修学校における学校評価は、平成 19 年の学校教育法及び同施行規則の改正により、学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課されています。また、職業実践専門課程に認定されている課程においては、学校関係者評価を必ず実施することとなっています。本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン」（文科省：平成 25 年 3 月）に基づき、**学校評価・学校関係者評価実施規程**を定め学校関係者評価を行なっています。

2 学校関係者評価の目的

関連業界、職能団体等関係者、卒業生、教育に知見を有する者などの学校関係者が、山形医療技術専門学校の学校評価結果を評価することで学校評価の客観性、透明性を高めるとともに、学校関係者から学校運営、教育活動の現状における課題について意見、要望を受け継続的な改善をはかること並びに特色ある学校づくりを目的としています。

3 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価をおこなうにあたり、本校の「自己評価報告書」を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」（文科省：平成 25 年 3 月）に則り実施することを基本方針とします。

4 学校関係者評価委員会委員

区分	氏名	役職/所属等	外部委員選任根拠	外部委員任期
委員長	岩田正巳	校長	－	
委員	杉原敏道	副校長		
委員	磯部佳宏	総務部長	－	
委員	武田貴好	教務課長	－	
委員	舩山貴子	理学療法学科長	－	
委員	鈴木竜平	作業療法学科長	－	
委員	田中基隆	理学療法学科長補佐	－	
外部委員	菊地和博	東北文教大学 特任教授	教育に知見を有する者	令和 4 年 4 月 1 日～令和 6 年 5 月 31 日
外部委員	飯塚哲	サンワ機器 代表取締役	地域住民 会社経営者	令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
外部委員	高橋怜児	至誠堂総合病院 理学療法士	関係業界 卒業生	令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
外部委員	柏倉昭之	篠田総合病院 作業療法士	関係業界 卒業生	令和 5 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

5 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時 令和 6 年 5 月 29 日（水） 15：00～16：30

場 所 山形医療技術専門学校 会議室

6 学校関係者評価方法

「令和 5 年度自己評価報告書」に基づき、基準項目の結果と今後の改善方策について以下のポイントに留意しながら評価をおこないました。

- （１）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （２）今後の改善方策は適切かどうか
- （３）学校の運営改善に向けた取組が適切かどうか
- （４）その他、学校運営に関する意見、要望等

7 学校関係者評価結果

評価については、◎適切である、○ほぼ適切である、△やや不適切である、×不適切である再検討が必要、の４段階の評価をおこなっている。

基準並びに項目に対する学校関係者の評価は、以下のとおりです。

基準並びに項目	評価(1)	評価(2)	評価(3)
基準 1 教育理念・目的・人材育成像	◎	◎	○
基準 2 学校運営	◎	◎	◎
基準 3 教育活動	◎	○	◎
基準 4 学修成果	○	○	○
基準 5 学生支援	◎	○	○
基準 6 教育環境	◎	◎	◎
基準 7 学生の受入れ募集	○	○	○
基準 8 財務	◎	◎	◎
基準 9 法令等の遵守	◎	◎	◎
基準 10 社会貢献・地域貢献	◎	◎	○

関係者評価委員会からの意見要望(委員会質疑応答)

教育活動

新カリキュラムが4年目となり完成年度となったとの事であるが、実際に教育活動を行ってみてどうだったか伺いたい。

旧カリキュラムと比較して科目間のつながりを意識した内容、配置となっており、学生の理解度も高まっているように感じている。今後、4年間の流れを確認しながら再検討し、シラバスによる学修内容の調整などのブラッシュアップを図っていきたいと考えている。

学修成果

5年連続での両学科揃っての国家試験合格率100%は、大変素晴らしい結果であると思われる。一方で留年・退学者が前年度より若干増加傾向にあったが、その原因と具体的な対策を伺いたい。

新型コロナウイルス感染症対策による制限も少なくなってきたものの、その影響によりクラス内の人間関係や学年間の縦のつながりが希薄化していることが学習のモチベーション低下の要因となり、退学する者が一定数いた。そのため、個別面談をまめに実施して個々の学生の状況把握に努め、問題が大きくなる前に対応していくよう引き続き取り組んでいる。これに加えて、令和6年度に初めての学校祭を開催したり、球技大会を開催したりして学生間の交流が図れるような場を提供し、充実した学校生活が送れるように支援することで、学修のモチベーション向上につなげていきたいと考えている。

卒業後のキャリア形成への教育活動の一環として、保育士免許取得を目指せる講座以外も検討しているとのことであるが具体的に伺いたい。

令和3年度から、卒後のキャリア形成の一環として外部から講師を招き保育士免許取得を目指せる講座を開講しているが、今後はスポーツ分野に興味のある学生向けにパーソナルトレーナーの資格取得を目指せる講座を検討している。その他、理学療法士・作業療法士としてのキャリアアップのためいくつかの資格取得のサポートを予定しており、現在準備を進めているところである。

学生支援

学生の就職率は今年度も100%を達成できたということであるが、最近の求人状況など就職全般について伺いたい。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止としていた就職ガイダンスを再開した。

求人数は例年並みであり、卒業生は概ね希望する施設に就職できた。

新型コロナウイルス感染症の影響で授業参観等の行事を取りやめているが、どのようにして保護者との連携強化を図っているのか伺いたい。

授業参観は中止しているが、保護者との適切な連携を築くために日常的な情報発信を行っている。また、ホームページの内容をこれまで以上に充実させて、保護者に向けた情報提供等を継続して連携を図っていきたいと考えている。

学生寮が完成したとのことであるが、現在の利用状況を伺いたい。

県外からの入学生および、遠方からの通学生に対して広く周知した結果、令和 6 年度の新規入居予定者は定数通りの見込みである。

教育環境

新型コロナウイルス感染症による臨床実習への影響がいまだに存在するようだが、その状況について伺いたい。

臨床実習については両学科とも円滑に実施できる体制をとっているが、一部の実習において日程変更を行ったため、学生に不利益が生じないように手厚くフォローした。また、臨床実習施設については、近隣の実習施設の確保に努め学生の経済的負担軽減を図った。

学生の受け入れ募集

入試の志願者が昨年度を大幅に下回り、作業療法学科では定員に満たなかったとのことであるが、その原因や対策などについて伺いたい。

明確な原因は特定できないが、少子化の影響はもちろんのこと高校生の進路として医療職がやや減少しているのに対し、健康・スポーツの分野や自動車分野などの志願者が増加しているというデータがある。今後の対策として、これまで以上に SNS を利用した情報発信等に注力して学校の魅力を発信していく。また、漠然と医療系を志望している高校生を対象とした進学ガイダンスの開催時期と回数を見直し、理学療法士・作業療法士の理解を深め興味を持ってもらえるような機会を増やしていきたいと考えている。さらに、秋田県での募集活動を強化するために現地で非常勤職員を採用し専属で広報活動を行うなど、様々な活動を充実させ展開していきたいと考えている。